

## 2023 年度日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック第 1 回議員総会 議事録

開催日時	2023 年 7 月 1 日（土）19:00～20:00
開催場所	ZOOM 会議
議事進行	大西弘高 支部長
議長	井口清太郎 先生
記録	関東甲信越ブロック支部事務局（東京大学大学院医学系研究科 医学教育センター/ 医学教育国際協力学部門内）
内 容	
<p><b>1. 開会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本日の委任状提出については事務局との連絡がすれ違ったが、議員総会定足数については議事録にて記すようにする（投票権を持つのは、学会代議員数 297 名、その他役員 2 名で計 299 名。うち、直接の出席者 51 名、提出された委任状が 93 通であったため、関東甲信越ブロック支部規約「第 24 条 議員総会定足数」の開催の条件（代議員総数の 3 分の 1 以上）を満たしていた）。</li> </ul> <p><b>2. 支部長挨拶（大西ブロック支部長）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 大西支部長よりブロック支部と都県連絡委員会の関係に関する説明がなされた。各都県支部は日本プライマリ・ケア連合学会（JPCA）会員以外も構成員になることがあり、その場合はプライマリ・ケア研究会のように称される傾向がある。学会員のみを構成員として各都県の支部に名称を替えるケースも少しずつ出ている。ブロック支部から各都県支部への支援は厭わない。各都県の学会員名簿の提供はその一つ。</li> <li>➤ 都県連絡委員会の委員長についてはまだ空席ではあるが、改めて声をかけていく方針。</li> <li>➤ 日本専門医機構総合診療専門研修のサブスペシャリティ研修に手挙げしたのは JPCA と日本病院総合診療医学会、日本地域医療学会の三つ。これら三学会の協調は重視されつつあり、ブロック支部でもその動きは注視している。</li> <li>➤ JPCA の次回理事選挙は男女比率、医師以外の専門職の比率に一定の枠組みを設けることが決定した。これもブロック支部の人選にも一定の影響をもたらすと考える。</li> </ul> <p><b>3. 議長選出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 新潟大学の井口清太郎先生が立候補され、議長に選出された。</li> </ul> <p><b>4. 協議事項</b></p> <p><b>議題 1：2022～23 年度ブロック支部長の選任 1. 2022 年度決算（資料 1）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 収入は、例年通り前期繰越金＋学会本体からの助成金受入。</li> <li>➤ 支出は、研修会費に第 11 回地方会に 110 万円、各都県支部補助金は 1 支部のみ支払い未で次年度繰越、特別支援事業費も支払い未のため次年度繰越となった。若手医師補助活動</li> </ul>	

費は専攻医継続支援企画、新専攻医オリエンテーション活動費はいずれも講師謝金。事務所運営費は事務局移管が 2023 年度にずれ込んだため 2022 年度は支出なし。謝金源泉所得税は、他のブロック支部に倣って 2022 年度より支払い開始。

- 監査は、監事の西村先生から報告。昨年までの監事の喜瀬先生にもお願いし、問題ないことを確認。紙の署名捺印が遅れているため、本日は写真のみ供覧。
- 議長より、やや繰越金が多いため、適切な支出が必要という意見があった上で 2022 年度決算は議決された。

#### 議題 2：監事の選任

- 現在の学会とブロック支部の関係が理解しやすい意味で理事経験者を中心に人選。
- 喜瀬先生が退任された後の空席については、坂口眞弓先生が男女比、職種比の動きも考慮して適任と考えられた。
- 現在監事である西村先生も秋に異動予定であり、代替わりの人選を行った。ブロック支部のこともよく理解しておられ、理事経験者でもある山田隆司先生にお願いしたい。
- 坂口先生、山田先生の 2 名に監事をお願いすることで決議された。

#### 議題 3：2023 年度特別支援事業案（資料 2）

- 2022 年度に引き続き、2023 年度も首都圏家庭医療教育者の会を主催しておられる藤沼康樹先生から活動継続の意向が示された。英語表記は MSTFM。外来診療、在宅診療の教育スキル改善を狙っている。
- 議長からは、首都圏にどこまで入るか質問があり、新潟などブロック支部一円が含まれる旨の確認がなされた。また、MSTFM による 2023 年度特別支援事業が可決された。

#### 議題 4：次期支部長の選出方法（資料 3）

- 次の支部長選出に関し、まず JPCA 理事選挙が今年冬頃から開始され、年明け 2～3 月に決定される。現在、支部長は JPCA 理事から選出されるため、JPCA 理事選挙が終了した後に速やかに選出ができるよう明確化したい。
- 理事による互選を行うため、理事が揃った時点で可及的速やかにブロック支部内の理事名簿を作成。この時点よりブロック支部の監事が選出プロセスの開始について報告を受け、監督を始める。また、ブロック支部長選出委員会を指名し、支部長の立候補及び推薦をメールにて受け付ける。
- 受付期間が終了した時点で複数の候補者がいれば支部長選出に向け、ブロック支部内の理事が出席する会議を電子会議を開催。選出委員会はオンライン会議のホストになり、監事はオブザーバーとして参加する。支部長選出会議は支部長を仮の議長とし、各候補者からの所信表明を行って、電子的な投票で支部長を選出する。
- 支部長が選出後、新支部長が副支部長や幹事を選任する。監事はプロセスに問題がなかったかを確認し、問題があれば決定プロセスに意見を述べる。
- これらは、都県連絡委員会に付議し、その後最終承認を議員総会で行う。

- 議員総会は承認機関なのかについて確認がなされ、支部長の選挙権はブロック支部内のJPCA 理事だけが持つことが確認された。
- 特に質問等なく、議決された。

#### 議題5：その他

- 特に議論なし。

### 5. 報告事項

#### 議題1：ブロック支部ホームページ1. 2023年度予算（資料4）

- 収入は、例年通り前期繰越金＋学会本体からの助成金受入のみで計774万円。
- 支出は、研修会費が第12回地方会に110万円。各都県支部補助金がそれぞれ15万円、1支部は2年分支払い。特別支援事業費は2022年度未払い分含んだ計算。若手医師補助活動費は、専攻医継続支援企画講師謝金と、可能ならポートフォリオ勉強会の分を積んでいる。新専攻医オリエンテーション活動費は講師謝金。事務局は移管中で2023年度より支払い開始となる。通信運搬費はZOOM契約を予定している。謝金源泉所得税は今年度も支払いを予定している。予算では次年度繰越は687万円を想定している。
- 2018年からの繰越金は2020年度にグッと増えた。これは事務局移管とコロナでの活動の停滞の影響が両方ある。
- 特に質問や意見はなかった。

#### 議題2：第11回地方会報告（資料5）

- 東京都支部の藤沼先生より報告がなされた。5.5万円ほど赤字になった分は東京都支部の側で補填する。優秀発表者には論文化を推進するために表彰し賞金を計15万円支出。

#### 議題3：2022年度特別支援事業報告（資料6）

- 首都圏家庭医療教育者の会を主催する藤沼先生より報告がなされた。第1回は10～15時の長丁場だったためやや辛そうな参加者もいた。2回目は短い時間で実施。参加者からの評判は上々。年度途中からの開始だったため19万円は返金予定。

#### 議題4：2023年度若手医師支援企画報告（資料7）

- 専門研修支援委員会の鋪野先生より報告がなされた。年4回の活動で、第1回は52名参加、第2回は7月30日予定で120名弱の参加予定である。

#### 議題5：2023年度専攻医オリエンテーション報告（資料7）

- 専門研修支援委員会の鋪野先生より報告がなされた。4月に実施済。

#### 議題6：関東甲信越ブロック支部事務局の移管（資料8）

- あゆみコーポレーションからの見積もりで金額的にも問題ないことが確認できたため、

ブロック支部側ではすでに移管を決めさせていただいた。地方会のサポートもお願いしており、すでに第 11 回は対応いただき、第 12 回もその予定である。

#### 議題 7：第 12 回、第 13 回地方会の進捗

- まずは大西支部長から状況説明。前回議員総会の際に地方会の主幹が決まっておらず、栃木県支部の状況を確認した。2011 年に栃木県支部が関東甲信越支部にて実施した記録があるが、これは JPCA が地域支部を再編する前の時期であったため、現体制では 2012 年の東京都支部で実施されたものが第 1 回である。ただ、第 12 回は準備期間もあまりなく、栃木県支部には 2024 年度の第 13 回を主催してもらうこととした。
- 家副支部長より、第 12 回はブロック支部役員の側で実施。2024 年 2 月か 3 月を想定。大西支部長が大会長、家副支部長が実行委員長という点は決まった。その他時期やプログラム内容など、決定し次第、ホームページなどで広報を予定している。
- 栃木県支部村井支部長より、第 13 回は 2024 年 12 月 14～15 日に会場仮押さえしたとの報告があった。

#### 議題 8：各都県支部活動報告

- 茨城県支部、横谷支部長：1～2 カ月に 1 度医療福祉に関する勉強会を実施。筑波大学、アール医療専門職大学、茨城県理学療法士会と協調しつつ進めている。
- 栃木県支部、村井支部長：年 4 回のプライマリ・ケア研究会と、年 1 回の支部での講演会企画がある。
- 群馬県支部、高柳先生：今年 3 月に総会と ACP に関する記念講演会を実施。
- 千葉県支部、林先生：今年度は 11 月に総会と例会を実施予定。千葉県支部は会員数は多いが、県支部の会合に集まりが悪いのが悩み。
- 東京都支部、藤沼先生：ZOOM での懇談会でコミュニティ作りから地道にやっている。秋には学習会や講演会も予定している。
- 新潟県支部、井口先生：県支部の重鎮が抜けてしまい、体制を立て直す途上である。
- 長野県支部、関口先生：学術活動が重要との議論があり、臨床研究に関する講演会を実施した。県内各地域の理事が集まって話し合いを継続していきたい。

#### 議題 9：その他

- 支部長よりホームページの各都県へのリンクを書き換えて欲しいというリクエストを集め、一気に変更してしまいたいので、連絡を行う旨の声掛けがあった。
- 次回議員総会は 2023 年 12 月を予定している。

以上をもって、2023 年度第 1 回の議員総会は終了となった。